

日本労働年鑑 1951年版(第23集)
The Labour Year Book of Japan 1951

第一部 労働者状態

第六編 農家の状態と農民の生活

第三章 農民の生活状態

第三節 保健状態

一九四八年六月現在で全国の「無医村」数は一、〇二七を数え、一九四六年四月現在の一、五三四にくらべて、かなり減少してはいるものの、なお全国町村の九・七%には医者と名のつく者がいないのである。診療所の設置を絶対に必要とする村は三一一であると報告されているが、それ以外の村においても農民が近代的な医療から隔離されている状態はおそろべきものがある。無医村の多いのは、次表によつて知られるとおり、福島、富山、新潟等であり、無医村を解消したところは福井、佐賀、長崎、東京等である。(第145表「無医村数」)。

農村における病院、診療所数は四七年九月一日現在で、病院三、七三一、一般診療所四、一七九、歯科診療所二一、六二〇であるがその中には農業協同組合経営のものが少数ふくまれている。(病院一九〇、診療所二六〇)

農民の保健状態は、その過度労働や生活程度の低いこと、封建的な生活慣行や迷信、不合理な食生活等のため一般的に悪化の傾向にあり、とくに四八年以来の農家の窮乏深化によつて促進されつつある。農村学童の体位は戦前(一九三七年)に比べ戦後(一九四六年)は身長、体重ともに低下し、とくに小学六年生の体重、胸位、身長すべてが低下を示している、(経済安定本部一九四七年「経済実相報告」を見よ)栄養不足に基因する諸症状の発現率を調査せる厚生省の[国民栄養調査成績]によれば、一九四七年は前年に比して決して減少しないばかりか[貧血]「口内炎」「月経異常」「母乳分泌不良」等は発現率を高めている。とくに戦時中から婦人労働の負担が重くなつているところから、婦人の病疾が増加している。

日本労働年鑑 第23集／1951年版

発行 1951年1月1日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 時事通信社

2000年2月15日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1951年版(第23集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)